

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(3年計画の2年目)

1. 研究課題

高度経済成長期の生活史

Life history during high economic growth period

2. 研究代表者氏名

藤原 辰史

FUJIHARA, Tatsushi

3. 研究期間

2023年4月-2026年3月(2年目)

4. 研究目的

本研究班では、「暮らしの手帖社」に所蔵されている文字史料と視覚史料を分析することで、高度経済成長期日本の生活や文化について考えていきたい。近世以来続いていた暮らしのあり方は、急激な都市化とモータリゼーション、テレビの登場、さらには石油産業の発達でダイナミックに変化した。暮らしの手帖社には、台所、トイレ、お茶の間など、高度経済成長期の人々の暮らしがわかる写真や原稿が多数存在している。また、全国から集めた戦争の記録も多数残存しており、それらは経済成長期にどのように戦争体験が受け継がれ、あるいは、忘却されていくかについての貴重な史料とも言える。これらはすべて、雑誌『暮らしの手帖』を率いた花森安治やスタッフが取材したものである。これらの史料の整理にあたった暮らしの手帖社のスタッフにも加わってもらい、研究会を進めていきたい。

In this joint research group, we consider life and culture in Japan during the country's period of high economic growth by analyzing written and visual historical materials in the collection of the publishing company Kurashi no Techo Co. Ltd. The way of life that emerged from the early modern period changed dynamically with rapid urbanization and motorization, the advent of television, and the development of the oil industry. Kurashi no Techo Co. Ltd. has many photographs and manuscripts that show how Japanese people lived during this period, including materials on kitchens, toilets, and living rooms. Furthermore, there are many war records collected by the staff of the publishing company, which are valuable historical sources on how the experience of war was passed on or forgotten during the period of high economic growth.

5. 本年度の研究実施状況

本年度は、昨年につづき、暮らしの手帖社の未公開原稿の調査ならびにデジタル化を進め、将来の公開や最先端のデジタル技術を用いた展示に向けて準備を整えた。また、2025 年 2 月 8 日には、暮らしの手帖社と共催で、「暮らしの手帖の理論と実践」というシンポジウムを開催し、200 名を超える来訪者を得た。また、読者のアンケートをとった結果、読者のライフヒトリーと雑誌の購読が深く結びついていることも学んだ。

6. 本年度の研究実施内容

- 2024.4.22 花森安治の戦時と戦後——美と暮らしの思想—— 発表者 福家崇洋
- 2024.5.13 温泉資源をめぐる戦後史-高度経済成長期を中心に-（生きる営みと環境問題班と共催） 発表者 高柳友彦 一橋大学
- 2024.7.23 『暮らしの手帖』と『家の光』—1950～60 年代の石鹼・洗剤「広告」を考える 発表者 岩島史 経済学研究科
- 2024.11.11 暮らしの手帖社と二人の小児科医—B・スブック(1903-1998)・松田道雄(1908-1998)の育児論の変遷にみる生活変容— 発表者 須永哲思
- 2024.12.16 『暮らしの手帖』における商品テストの確立と発展（「モノ・知識・環境班」との共同開催） 発表者 西川晃弘 大阪大学
- 2025.2.8 市民共創セミナー「暮らしの手帖の理論と実践」 雑誌『暮らしの手帖』の歴史 発表者 難波達己+藤原辰史 暮らしの手帖社 『暮らしの手帖』と料理 発表者 西川和樹 同志社大学 花森安治の戦争詠 発表者 菅原百合絵 『暮らしの手帖』の商品テスト——大量生産時代のモノと人間—— 発表者 瀬戸口明久 戦争中の暮らしの記録について 発表者 森谷理紗 コメント コメントーター 福家崇洋 コメント コメントーター 小堀聡 司会 藤原辰史
- 2025.2.10 暮らしの手帖を愛読していたある少年の暮らし 発表者 池田巧

7. 共同研究会に関連した公表実績

市民共創セミナー「暮らしの手帖の理論と実践」 の開催（2025 年 2 月 8 日）

8. 研究班員

所内

藤原辰史、岩城卓二、酒井朋子、石井美保、小堀聡、福家崇洋、瀬戸口明久、菅原百合絵、須永哲思、李英美、小関隆、池田巧、森谷理紗

学内

岩島史(経済学研究科)

学外

青木聡子(東北大学文学部)、西川和樹(同志社大学)、会田綾子(暮らしの手帖社)、難波達己(暮

しの手帖社)、西川晃弘(大阪大学)、上野小麻里(島根県立美術館)

9. 共同利用・共同研究の参加状況

| 区分 | 機関数 (必須) | 受入人数 | | | | | 延べ人数 | | | | |
|--|-------------|-----------|----------|------------------|------------------|----------|-------------|----------|------------------|------------------|----------|
| | | 総計 | 海外研究者 | 若手研究者 (40歳未満) | 若手研究者 (35歳以下) | 大学院生 | 総計 | 海外研究者 | 若手研究者 (40歳未満) | 若手研究者 (35歳以下) | 大学院生 |
| | | | | | | | | | | | |
| 人文研所 属 (内女性) | 1 | 13 (5) | 0 (0) | 3 (2) | 0 (0) | 0 (0) | 118 (20) | 0 (0) | 18 (10) | 0 (0) | 0 (0) |
| 京大内 (人文研を除く) (内女性) | 1 | 1 (1) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 5 (5) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) |
| 国立大学 (内女性) | 2 | 2 (1) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 1 (0) | 10 (10) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 1 (0) |
| 公立大学 (内女性) | 0 | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) |
| 私立大学 (内女性) | 1 | 1 (0) | 0 (0) | 1 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 5 (0) | 0 (0) | 1 (0) | 0 (0) | 0 (0) |
| 大学共同利用機関法人 (内女性) | 0 | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) |
| 独立行政法人等公的研究機関 (内女性) | 0 | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) |
| 民間機関 (内女性) | 3 | 3 (2) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 18 (12) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) |
| 外国機関 (内女性) | 1 | 1 (0) | 1 (1) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 1 (0) | 1 (1) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) |
| その他 ※ (内女性) | 0 | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) |
| 計 | 9 | 21 (9) | 1 (1) | 4 (2) | 0 (0) | 1 (0) | 157 (47) | 1 (1) | 19 (10) | 0 (0) | 1 (0) |
| ※「その他」の区分受入がある場合 具体的な所属等名称を記載：例) 高校教員 無所属の場合は機関数 0 とカウントし、この欄の記載不要 | | | | | | | | | | | |

10. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

| | 共同利用・共同研究による成果として発表された論文数 | | | |
|---------------------------------------|---------------------------|-----|--------------|-----|
| | | | うち国際学術誌掲載論文数 | |
| ①人文研に所属する者のみの論文(単著・共著) | 10 | | 0 | |
| ②人文研に所属する者と人文研以外の国内の機関に所属する者の論文(共著) | 0 | (0) | 0 | (0) |
| ③人文研以外の国内の機関に所属する者のみの論文(単著・共著) | 1 | | 0 | |
| ④人文研を含む国内の機関に所属する者と国外の機関に所属する者の論文(共著) | 0 | (0) | 0 | (0) |
| ⑤国外の機関に所属する者のみの論文(単著・共著) | 0 | | 0 | |

本年度発表されたインパクトファクターを用いることが適当ではない分野等

| | 雑誌名 | 掲載論文数 | 掲載年月 | 論文名 | 発表者名 |
|---|--------|-------|--------|--------------------------------------|-------|
| 1 | 村落社会研究 | 1 | 2024.4 | 村落社会の「生活」研究とフェミニスト分析の接続可能性 | 岩島史 |
| 2 | 人文学報 | 1 | 2024.6 | 青空が欲しい再訪:高度経済成長期戸畑の婦人会による反公害運動の道のり | 小堀聡 |
| 3 | 人文学報 | 1 | 2024.6 | 戦後歴史学の明暗 渡部徹と社会・労働運動史研究 | 福家崇洋 |
| 4 | 人文学報 | 1 | 2024.6 | レールに身体を横たえて:鉄道自殺の技術論 | 瀬戸口明久 |
| 5 | 人文学報 | 1 | 2024.6 | 私立各種高校・京都人文学園の歴史ー「人文主義の精神に依る教育」のゆくえー | 須永哲思 |
| 6 | 日本史の現在 | 1 | 2024.7 | 日本における共産主義運動 | 福家崇洋 |

| | | | | | |
|----|--------------------|---|---------|--|------|
| 7 | 戦争社会学研究 | 1 | 2024.7 | シベリア抑留下の日本人収容所で響いた音ー民主講習会、ラジオ、手稿歌集の中の歌 | 森谷理紗 |
| 8 | 農業経済研究 | 1 | 2024.9 | 農業経済学のポテンシャルー歴史から考えるー | 藤原辰史 |
| 9 | 中間派無産政党機関紙集 | 1 | 2024.11 | 「中間派」無産政党と機関紙発行事業 | 福家崇洋 |
| 10 | 〈家族〉のかたちを考える②家族と病い | 1 | 2024.12 | コロナ・パンデミックによる政治と社会の重症化 | 藤原辰史 |
| 11 | 年報日本現代史 | 1 | 2024.12 | 国籍の喪失と「回復」ー1970年代日本の国籍確認訴訟と補償問題 | 李英美 |

11. 本年度共同利用・共同研究による成果として発行した研究書
なし

12. 博士学位を取得した学生の数
なし

13. 次年度の研究実施計画

次年度は、今年度のシンポジウムを踏まえ、戦争の記憶、商品テスト、女性の生活の記録、花森安治の思想と文体、家庭の医学や性教育といったテーマで、ひきつづき資料の整理と研究を進めていきたい。また、商品テストのための勉強会を開いていた企業人のインタビューなど、読者との関係についても、聞き取りを始めたい。

14. 研究成果公表計画および今後の展開等

次年度については、研究成果公表の企画はないが、2028年度の『暮らしの手帖』80周年に向けて島根県立美術館と協力しながら展示の準備をさらに進める予定である。